

ツシュを利用して下る。その先にも2mの小滝があり、ここには木馬道の残骸が残っていた。小さな沢で、等高線の傾きから考えても平凡な沢におわるだろうと考えていたので、実はちょっぴりと喜ぶ。しかしあとはずっと平凡。しかも右岸が伐採地となったあたりから、沢は伐採された木の枝で埋まり、とても歩けなくなる。しかたなく、左岸の踏跡に上がって下降終了とする。そのあと5分で林道稲沢北山本線に出た。

(記・)

[タイム] 一ノ沢下降開始(6:05)→一ノ沢下降終了(6:30)

宮川支流二ノ沢(仮称)

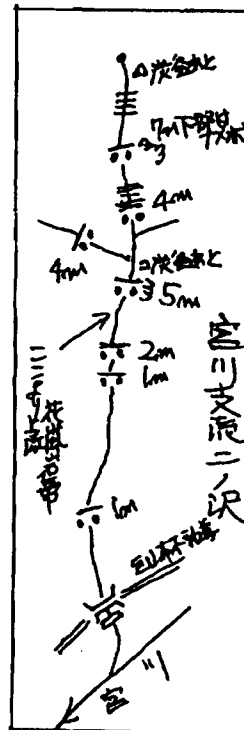
1989年8月12日

二ノ沢(仮称)の出合はとても貧弱で、遡行意欲をそがれたがとにかく出発。案の定平凡な登りが続く。20分ばかり遡って、もう少し行ってから引き返そうかと考えていたら、岩質が花崗岩に変わり、とたんに滝が出てきた。5mのナメ滝。左岸が岩場となっていて、そこにイワタバコが可憐な花を咲かせている。案に登れるが、その先にも2つ滝が出てきた。両方共多くはないが適当にスタンスがあり、直登する。平凡な登りの果てにちょっとしたハイライトのある沢であった。

7:20源頭に達する。稜線直下、落葉の下からしみ出る感じで流れ出る水が水源であった。

(記)

[タイム] 二ノ沢出合(7:50)→遡行終了(7:25)



宮川支流三ノ沢(仮称)

1989年8月12日

7:55, 三ノ沢(仮称)の遡行開始。この沢は全く平凡であった。行けども行けど

も変化がない。水量はぐんぐん減って、源頭近しを思わせるばかりである。やがて沢筋に、錆びたドラムカンや石油缶が見られるようになってきた。森林作業の名残りのようである。これで終わりかと思ひながら歩を進める。やがて2つの小滝。三ノ沢にわずかに花を添えている。まもなく五来山林道終点に出て廻行終了。林道より上部では、伐採作業が進んでいた。

(記)

[タイム] 三ノ沢出合(7:55)→三ノ沢終了(8:50)

宮川支流四ノ沢(仮称)右俣

1989年8月12日

9:15四ノ沢(仮称)右俣の下降開始。樹林帯の中を5分程下ると、源頭の湧水地点に出る。そのあと4mの滝をクライミングダウンすると、左俣本流に出る。ここから明るい花崗岩の沢となり、急に視界が開ける感じである。

やがて急なナメと滝が連続して、急激に高度を落す。まずは4m。クライミングダウンする。よくみがかれているが、適当にスタンスがあって下ることができた。ところが、その下の5mは下れない。右岸を搦く。ただ、登ることならできそうな感じである。すぐまた7m。よくみがかれた岩場の小さなスタンスをひろってクライミングダウンする。ここまで全体が一つの滝といってもよい所である。

ホッと一息つくまもなく、また滝が続く。3m滝は左岸をクライミングダウン。ソシテ5mナメ滝。ここも下れない傾斜ではないが、よくみがかれているので、慎重にスタンスをひろって下る。下りきったところで、ようやく沢の傾斜が緩やかとなり、まもなく左俣との出合に到着する。登りに使うと快適な沢登りになったろうにと、ちょっぴり悔やまれる思いがした。

(

[タイム] 四ノ沢右俣下降開始(9:15)→左俣出合(9:50)→山本不動尊(10:25)

